

林業技術センター
普及班便り
(第49回)

いわての林業人28

はじめに

今月の普及班便りでは、岩手県へのUターンを間近に予定する、神奈川県の川又正人さんをご紹介します。

○神奈川県での仕事

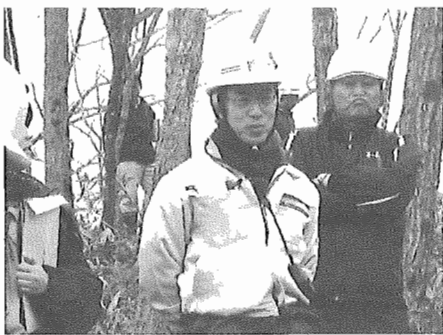
川又さんは安代町(今の八幡平市)の出身で、以前は地元で林業を営んでいましたが、縁があって神奈川県の神奈川県で林業事業体「川又林業」を営んでいます。首都圏に属する神奈川県では、県民の方々の環境に対する関心が高く、森林は環境財として考える方も多いそうです。森林の環境的な機能を充実させるため、岩手県では「いわての森林づくり県民税」を導入しましたが、神奈川県でも「水源環境保全税」が創設され、県が様々な事業を行っています。川又さんの会社では、この事業を県から受託し、森林整備を進めています。その主な内容は、除伐、間伐、森林現況調査、シカ被害生息調査と幅広く、防鹿柵の設置も行います。作業

を行う際には、作業地の環境を悪化させないことに注意を払い、伐出の際にもジグザグ架線(単線循環式軽架線)や林業用モノレールの利用により、地表のかく乱を抑えています。

「森林整備を進めると林床植生が回復するが、それをシカが食べ、結局は林床植生が失われてしまう」と、シカとの共存に悩ましい様子でした。また、森林インストラクターとしても活躍で、昨年度には「全国植樹祭記念かながわ未来につなぐ森づくり賞」も受賞されました。

○Uターンと今後の経営

神奈川県を本拠地として活動してきた川又さんですが、「地元で働きたい」「自分の山林を経営したい」と考え、定年を機に、一家で岩手県へ戻ることにしたそうです。川又さんは、岩手県内に数百haの山林を



川又 正人 さん (中央)

持つっており、今後は「林家として林業で食って行きたい」とのこと。現在の状況と比較して、「岩手県では、生業としての林業経営が成り立つ」と意欲的で、山林のうちカラマツ林は主な収入源に、広葉樹林はその多様な植生を活かして教育や交流の場にしたと考えます。こちらでの林業の開始に向けて、既に数か所、約180haの山林を対象に森林施設計画を立てて、認定されたとのこと。

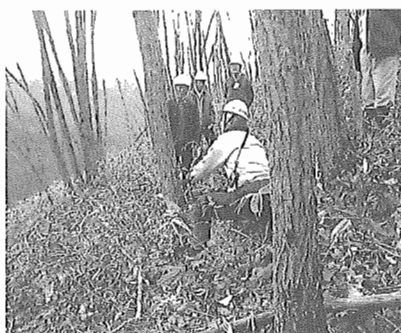
計画を立てる際には、現況調査、計画策定を自分で行い、時には現況と森林簿の違いに驚きながらも、「事業体として顧客の計画を立てる場合とは違い、自分の山を経営する計画を立てる、その現実味が面白かった」と話します。

経営内容にはシイタケなどのキノコ生産も取り入れ、安定的な経営を目指すとのこと、取材当日は、盛岡地方しいたけ生産振興協議会が主催する原木伐採現地研修の場でお会いしましたが、講師を務めた三浦新太郎さんの段取りや作業を食い入るように見詰めていました。また、伐倒や玉切りの実習には率先して参加し、作業の間にも熱心に質問を重ねるなど、近い将来の作業を具体的にイメージしているようでした。三浦さんの作業を見た感想を、同じ森

林作業のプロである川又さんに尋ねると、「玉切り、伐倒のいずれも素晴らしい」と絶賛していました。

○家族と一緒に

最近では、息子さんも「緑の雇用」を経て川又林業に入り、「これで後継者も出来た。」と、心強そうです。また、林業経営以外の活動にも意欲的で、盛岡市内にある視覚障害者向けの「手で見える博物館」の運営を引き継ぎ、今年の七月に開館させました。館長を務めるのは娘さんですが、川又さんも「来館者の知的興奮を目の当たりにして、感動する」とのことでした。



伐採に挑戦

おわりに

自分の山林の経営について、熱意を持って語る川又さん。岩手への「お帰り」をお待ちしております。

林業技術センター普及班